

第3回「食生活ジャーナリスト大賞」受賞者決定

受賞者紹介

■ジャーナリズム部門

畑中三応子氏（食文化研究家）

<授賞理由>

食べ物を巡る社会の動き、日本人と食べ物の関係などを独自の視点で論じてきた。「ファッションフード、あります。－はやりの食べ物クロニクル」（筑摩書房）、「カリスマフード－肉・乳・米と日本人」（春秋社）など著書多数。長年にわたり「食」の文化的変遷、流行の特徴と変化を追いつけてきたジャーナリストとして、その功績は平成最後の大賞にふさわしいと評価された。

<簡単な略歴>はたなか・みおこ 1958年8月9日生まれ。東京都世田谷区在住。中央公論社（現・中央公論新社）の「シェフ・シリーズ」「暮しの設計」編集長を経て独立し、プロから初心者向けまで幅広く料理書を手がけるかたわら、近現代の食文化を研究してきた。連絡先はオフィスSNOW（03-3475-6864）。

■食文化部門

寺本英仁氏（島根県邑南町農林振興課 食と農産業戦略室）

<授賞理由>

過疎が進む邑南町（おおなんちょう）で、農業と料理人の育成制度「耕すシェフ」や、全国各地から招いたシェフによる特別講座、料理教室を展開する「食の学校」など「食」と「農」を切り口にさまざまな取り組みを仕掛け、地域活性化につなげた「スーパー公務員」として知られる。北海道、福井、宮崎など5自治体で「にっぽんA級（永久）グルメのまち連合」を設立するなどその活動は全国に広がりつつある。昨秋、活動をまとめた著書「ビレッジプライドー「0円起業」の町をつくった公務員の物語」（ブックマン社）を出版し、話題になった。

<簡単な略歴>てらもと・えいじ 1971年8月21日生まれ。邑南町在住。

連絡先は邑南町役場（代表0855-95-1111）。

※第3回大賞は一般社団法人Jミルクと東洋ライス株式会社の協賛を得ています。

<食生活ジャーナリスト大賞に関するお問い合わせ>
JFJ代表幹事 小島正美 TEL：080-8469-6522